

2024年3月発行

一般社団法人

News Letter

ニュースレター

大学女性協会静岡支部

発行責任者／支部長 山下いづみ



【支部長挨拶】

皆様、今年もよろしくお願いいたします。

オンラインによる会議、セミナーがかなり普及してきました。それにより本部委員会の取り組みやセミナー、シンポジウムの参加も容易になってきました。2022年に開催された全国セミナーで静岡大学の津富宏先生のご講演「ケアし合う社会をつくる」がありました。このご講演が奮起する材料となり本部調査研究委員会で「ケアしあう希望ある社会を目指して～ユースのいきづらさを探る～」がスタートしたことは、静岡支部にとっては嬉しいことでした。毎月15日には大学女性協会のホームページが更新され、多彩な企画や報告の閲覧ができます。ご興味ある企画には積極的にご参加ください。

さて、静岡支部では女性キャリアアップ事業を、形を変えながら複数年取り組んでいます。2022年には公開オンラインシンポジウム「女性のキャリアアップ～意思決定プロセスへの参画のために～」を開催し、今年度は報告書を取りまとめました。

1995年に北京で行われた第4回世界女性会議では、ジェンダーの視点を反映することが確認され、1999年には、日本で男女共同参画基本法が制定されました。21世紀の最重要課題と位置づけた男女共同参画社会の実現に向けて、2024年度の支部活動も皆様の知見を得て取り組みたいと考えております。辰年、飛躍の年として参りましょう。

静岡支部長 山下いづみ

Report

1

女性のキャリアアップ調査の今後

鍋倉 伸子

2019年、県内静岡市を中心に、さまざまな組織で管理職になっている8人の女性の聞き取り調査を実施し、調査報告書を2020年春に作成しました。それぞれの回答者は困難にあっても、その能力と努力をもって現在の地位を得ていることを知り、また回答からキャリアアップのための方策をまとめました。システムとして、クオータ制など女性の積極的な登用、女性の職種・職域の拡大、キャリアアップのための教育、男女ともに仕事と子育て・介護が両立する仕組みなどが挙げられました。また個人として、新しい業務にチャレンジし新しい仕事は進んで引き受ける、知識・技術・資格を積極的に取得する、多くのコミュニティを持つことなどが提案されています（ホームページ参照）。

2021年10月、回答者8人のうちの4人と支部会員9人で懇話会を開催し、新聞社の取材もあり、男性の育児休業がクローズアップされました。さらに、2022年末、一般参加者・本部会員も含め、オンライン公開シンポジウム・ワークショップを開催して、さまざまな課題が挙げられました。また、富士市市長として最初から参加されていた伊東美加氏が2023年4月福祉部長を定年退職後、4月に富士市議会議員に初当選。2023年12月、オンラインでその経緯などを聞く機会を持ち、支部入会もお願いできまし

た。また、浜松市の新入会員から、浜松市で同じ設問のインタビュー調査をしたこと（近日中に報告書発行）など新たな展開を知り、今後の調査への希望を持つことになりました。

2024年度の新たな取り組みでは、「女性のキャリアアップ 政策への関与」として、静岡県東部にある富士市、中部にある静岡市、西部にある浜松市を比較することを検討しています。【各市の女性議員の比率は、富士市は21.88%（32人中7人）、静岡市は6.25%（48人中3人）、浜松市は30.43%（46人中14人）と大きな差が出ていて（2023年12月現在）、比較への関心を持つきっかけとなりました】

- ・各市の男女共同参画データと政策の比較
- ・女性議員へのインタビュー調査
- ・各市の産業界・企業インタビュー調査

などを実施し、その上で、今までのシンポジウム、ワークショップであげられた意見の中から、例えばクオータ制、女性のネットワークやサポーター、男性のオールドボーイズネットワークの打破など具体的な提案を出せたらいいと考えています。



Report

2

静岡支部として協力した若者のインタビュー調査

勝又 幸子

JAUW調査・研究委員会は2023年7月～9月に、アンケート調査「ケアしあう希望ある社会を目指して～ユースの生きづらさに探る～」を実施しました。静岡支部より山下支部長と勝又の2人が参加しています。静岡支部では、これまで交流してきた静岡県立大学の学生さんを中心として、アンケートへの協力を呼びかけました。アンケートではコロナ禍で若者がどのような生活を経験し、どのような影響を受けたかを尋ねました。

JAUW12支部が調査に協力しましたが、静岡からの回答が全体291名のうち37名と3番目に多くなりました。その中でインタビューに協力してもよいと答えた人7名（静岡）に連絡をとり、2名から直接話を聴くことができました。インタビューでは共通して次のようなことを質問しました。・なぜインタビューに答えようと思ったか。・その時点での大学生活の様子。・社会活動をしている人には、その活動内容。・今一番問題と感じていること。・行政・企業・大学などに求めることがあるか。

・大学女性協会に求めること

以下、実際のインタビューの中から少しご紹介します。

<大学4年生 女>

大学生活で最も問題だと感じていることは、周りの見ていると、大学生活1年間がほとんどオンラインだったから、

今更人間関係を新しく作るのも面倒になり、全然友達がいないまま、1人でもいいやっと思って、大学生活をすごしている子も結構多い印象です。人と繋がることを面倒だと感じる人が増えたかなという印象があります。サークルの活動で、集まろうとかと呼びかけてもあまり集まりたがらなかったり、初対面の人がいると、ちょっと敬遠されたり、それこそ仲良くなるために飲み会に行こうというのにも、行きたがらない子が増えた印象です。

<大学1年生 女>

「助けたいんじゃー」のメンバーとして望むことの例

・貧困について関心のある大学女性協会の研究者がいればご紹介いただくこと。

・大学女性協会が表彰などを通じて「助けたいんじゃー」や「たべものカフェ」の活動に注目していただくこと。

・学生の貧困について取り組んでいる他大学の取組みがあれば教えていただくこと。

調査・研究委員会では2月27日に、インタビューにこたえてくれた人3名の若者を招いて、オンラインの報告会と意見交換会をしました。直接、若者の感じていることを聞く希少な機会が得られました。この事業は来年度も継続です。

Report 3

令和5年度 大学女性協会全国セミナーに参加して 山下 いづみ

令和5年度の大学女性協会全国セミナー「教育・ジェンダー・共生」では、分科会2のファシリテーターを仰せ付けられました。「改めて問う 女性の政治参画に今、必要なものは何か」と題して、二人のパネリストに前芦屋市長の伊藤舞様（神戸支部）、そして元小平市議会議員の日向美砂子様（東京支部）をお迎えして会場と意見交換を行いました。

世界経済フォーラム（WEF）「Global Gender Gap Report」（世界男女格差報告書）の2023年では、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位で、2006年の公表開始以来、最低でした。分野別にみると、政治が世界最低クラスの138位で、男女格差が埋まっていないことが改めて示されました。女性活躍という言葉からは程遠いのが日本の政治分野です。

政治家になるには、まずは選挙に当選しなければなりません。政治を語るには、まずは選挙の話ということで、令和5年4月の芦屋市長選挙の話からディスカッションは進んで行きました。伊藤さんの対抗馬だった26歳史上最年少の現市長は、選挙プランナーに依頼し、潤沢な資金で戦ってきたという話から、それでは、選挙にはプロのコンサルティングと豊富な資金があれば誰でも政治家になれるのかという問いから話は展開していきました。

自分自身も市議会議員という立場にいますので、今回の会場から様々な声を聞き、日本には主権者教育が必要だと痛

切に感じました。政治や選挙をもっと身近なものにしていただきたいし、議員自身も様々な形で住民へアプローチが必要だとも思いました。また、議会も自治体によって個性が違うので、ひとくくりにして議会や議員のことは語れないと思います。住民の皆様にはご自身の自治体議会に足を運んでいただき、肌で議会を知っていただきたいと思いました。そして、議員や首長に叱咤激励をしていただきたいと思います。

分科会2で「今、女性の政治参画に、必要なもの」として提言したことは、

- ・主権者教育を進める。有権者の意識を高めていくには、生涯学習や学校教育で政治や選挙について学ぶこと。
- ・立候補者や議員との小グループでの意見交換会を開催する。より候補者や議員の人となりや考えがわかるようになる。参加者の意見を共有できる。
- ・選挙に金銭のかからない仕組みを作る。
- ・候補者のキャリアが途絶えない仕組みを作る。

落選をして、職を失い、生活に困ることが内容にすること。台湾の事例を参考にすることなど。

*分科会2を含めて全国セミナーの報告書が作成されます。詳細は報告書を一読いただけますようお願いいたします。

当日の資料はこちらからご覧いただけます。



Report 4

「みんなで作ってカーニバル」に参加して

林 幸子



2月18日、県立大学リトルワールドキャンプ実行委員会は、JR清水駅前にある静岡市こどもクリエイティブタウン「ま・あ・る」で、「みんなで作ってカーニバル」をテーマに、学生と小学生が一緒

になって、身近にある材料を使って楽器作りをしました。

カーニバルに必要な楽器は、タイコ、マラカス、カスタネット、ギロ、タンバリンで、小学生達は思い思いに、楽器製作に取り掛かり、シールを貼ったり、模様を付けたり、自分流のオリジナル楽器に仕上げました。その後は、その楽器を使い、パートごとに練習し、みなで合わせました。そして、最後はサンバの曲を演奏しました。子ども達の瞳はきらきら輝き、いっぱい元気です。

静岡支部とリトルとの関りは、2011年多文化共生活動助

成事業の時からです。リトルの活動は、毎年8月小学4年生から6年生を対象にキャンプをします。又、静岡に住む、外国とつながりのある子ども達と日本人の



子ども達との相互理解を深めるため、小学生を対象にいろいろなイベントを企画・実施しています。

私達大学女性協会静岡支部は、それらを支援応援しております。毎年5千円の寄付だったのを、今年は1万円に、更に特別に3万円の支援をいたしました。

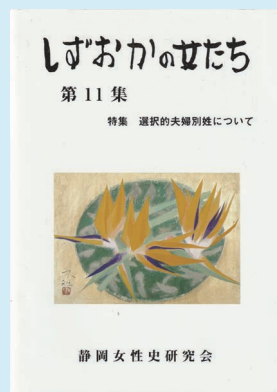


選択的夫婦別姓を特集

大塚 佐枝美

静岡女性史研究会は 1978 年に発足、静岡の女性たちが何を考え、どう生き、働いてきたかを記録として残しておきたいと活動して 45 年になります。その間に 11 冊の「しずおかの女たち」を発行してきました。

直近では、昨年 8 月に発行の第 11 集では「選択的夫婦別姓」を特集しました。アンケート調査を行い、夫婦別姓を実行している 8 名の方の聞き書きを行いました。事実婚、通称使用、韓国籍等の課題が浮き彫りになりました。今回のライフヒストリーも興味深いものでした。同時にコロナ禍でのシングル女性からの寄稿をも掲載することが出来、現在の女たちの置かれた状況の一端を示すことが出来たと考えています。



【新入会員紹介】 伊東美加さん バレリーウィルキンソンさん



昨年度入会させていただきました伊東美加と申します。

高校時代には、高学歴の女性には、「志を持って社会に出ても、男性社会に潰される」という根拠もないイメージを持ち、手に職をつけて早く社会に出たいと考えていましたが、紆余曲折あって短大を卒業後、市役所で 40 年過ごし、昨年定年退職いたしました。入庁当時の市役所は男性優位社会でしたが、様々な活動の中で、多少は女性が活躍できる職場になったのではないかと思います。退職前の 4 年間は部長として議会と対峙する中で、女性議員の少なさを憂いておりましたが、皆様のお力添えがあり、現在は富士市議会議員として活動しております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



Dr. Valerie Anne Wilkinson came to Japan, specifically Nagasaki, in 1980 with two MAs (Classics and English). Years of experience and education brought her to Shizuoka University Social Informatics in

1995 with her PhD in Comparative Literature and Culture. Elected professor in 2000, she held the Communication Seat, teaching English Communication, Experiential Learning, and Game Theory. After retirement from the University she wants 1) to write about the changes she's seen in Japan in the Age of Information. 2) ponder the deep lessons she has learned from her Japanese students. 3) participate in exchange programs between Japan and USA.



今後の予定

【静岡支部総会】

日時：令和 6 年 4 月 20 日（土）11：00～
場所：男女共同参画センターあざれあ

【全国総会】

日時：令和 6 年 5 月 11 日（土）～12 日（日）
場所：名古屋



編集後記

皆さまお元気でいらっしゃるかと思います。皆さまの周りも、「日常生活」が戻ってきていますか？戻ったと言っても、全く同じ訳ではなく、改良(?)改善(?)されているのでしょうか。変わりましたよね。

さて、自民党の裏金問題。桁の違うお金のやりとり。やっと政治倫理審議会が公開されましたが、闇は深まるばかり。国民置き去りの政治を許す訳にはいきませんよね。

編集担当 佐藤 成子